

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05219

研究課題名（和文）シナ＝チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論

研究課題名（英文）A Study on the Historical Development of the Sino-Tibetan Languages and their Typological Geography

研究代表者

池田 巧（Ikeda, Takumi）

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：90259250

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 130,400,000円

研究成果の概要（和文）：シナ＝チベット系諸言語の地理的多様性と連続性、類型構造の深層における共通性を探究し、アジア地域における諸言語の類型構造の漸次的推移に反映された歴史的变化の諸相を解明していくという研究目的のもと、未記述言語の調査を進め、類型構造の分析を深化させた。チベット文語の成立と基層言語の探究、民族文字文献の調査と分析、古代漢語の構造分析、漢語方言の構造分析とその地域的変容といった研究課題について、フィールド調査と古文献記録の言語データを比較しつつ実証的な再構築を試みた。研究の成果は、京都大学で招聘開催した第55回国際シナ＝チベット言語学会議にて報告したほか、論集シリーズおよび言語データ集を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

単音節の形態素を基本構造とし、語の形態変化に乏しいシナ＝チベット諸語にあっては、インド＝ヨーロッパ諸語のような形態変化に文法の基本的な構造が現れるタイプの言語とは異なる発達と変化の過程を辿ったことが明らかになるにつれ、インド＝ヨーロッパ諸語の歴史研究における法則や方法論とは異なるアプローチが模索されてきた。類型構造の詳細な分析に基づいて、地理的分布の漸次的推移から歴史的変遷の過程を読み解くという言語類型地理論に歴史言語学の視点を導入した手法もそのひとつである。本研究は従来の伝統的な方法論による記述研究に加え、漢語とチベット＝ビルマ諸語を包括する新たな視点からの分析を展開して研究を進展させた。

研究成果の概要（英文）：With the aim of exploring the geographical diversity and continuity of Sino-Tibetan languages and the commonalities in the depths of their typological structures, and to elucidate the aspects of historical changes reflected in the gradual transition of the typological structures of languages in Asia, we have conducted research on undocumented languages and deepened our analysis of typological structures. We attempted empirical analysis of the following research topics: the establishment of Written Tibetan and exploration of the substratum languages, survey and analysis of ethnic written literature, ancient Han documents, and Chinese dialects with regional transformations, by comparing linguistic data from field surveys and old literary records. The results of this research were presented at the 55th International Conference on Sino-Tibetan Linguistics, held at Kyoto University by invitation, and published in a series of articles and a collection of linguistic data.

研究分野：シナ＝チベット諸語の言語学

キーワード：シナ＝チベット諸語 古代漢語 牧畜民型と農耕民型 言語類型地理論 歴史的变化

1. 研究開始当初の背景

■90年代以降、自由化の進む世界情勢を背景に、中国を中心とするアジアの各国で現地調査による言語データの蓄積が飛躍的に進んだ。しかしそのいっぽうで、マニュアル通りの調査報告の増加が目立ち、調査報告の類型論的分析は依然として不十分である。言語の記述研究と類型論的分析においては、表面的な観察からしばしば近隣諸語との類例の恣意的な列挙とそれによる相互関連あるいは史的交流の示唆にとどまり、記述分析や比較研究であるにもかかわらず、実証性を欠く議論が行われていたと言えよう。言語の類型構造の類似とその地理的分布が何を意味するかについて考究するには、研究データの整理と各論の展開において構造分析が十分ではなかったため、表面的な類似を歴史研究へ安易な適用するような短絡的な議論も少なくなかった。■数多くのシナ=チベット系諸言語が話されている巨大なフィールドを擁する中国では、「小学」と呼ばれた伝統的な言語の分析に始まる漢語研究の長い伝統があり、それを基礎として西洋の近代的言語学を導入したという歴史的な事情から、漢語の分析法を基準あるいは中心として周縁のチベット=ビルマ諸語を参考資料とする姿勢での研究が主流である。漢語と類型構造の近いチベット=ビルマ諸語を対象とした記述研究においても、かかる伝統的な研究方法が採用されてきた。その簡便さと有効性から、記述データの蓄積に大きく貢献したいっぽうで漢語研究からのバイアスは想像以上に大きい。それゆえ、伝統のバイアスを離れて漢語とチベット=ビルマ諸語を同じプラットフォーム上で同等に扱い議論することは意外にも少ない。中国の学界では、かかる問題意識を共有することも困難であるので、本研究では、まず類型論という同じプラットフォーム上で、類型構造のテーマごとに可能な限りの深い記述分析を行なって、その結果を突き合わせ、新たな研究の展開を期待すべく、本研究プロジェクトを立ち上げることにした。

2. 研究の目的

■本研究は、シナ=チベット諸語の地理的多様性と連続性、類型構造の深層における共通性を探究し、アジア地域における諸言語の類型構造の漸次的推移に反映された歴史的变化の諸相を解明する。未記述言語の調査を進め、類型構造の分析を深化させ、古文獻記録に見える言語データと比較することで、古代漢語や西夏語を含むシナ=チベット諸語の系譜と相互関係を実証的に再構築していく。言語間の類型構造の類似が、果たして同系の祖語からの継承なのか、接触による影響なのか、あるいは独自の発達を遂げた結果なのかを検証する。日本から提唱された東アジアの諸言語に関する巨視的な理論である言語類型地理論を基礎にシナ=チベット諸語においてより広範に検証を行ない、発展的な継承と展開を進めることで、先行研究で指摘されてきたヨーロッパの歴史言語学が確立した比較方法による研究の限界を補強し、アジアの諸言語の記述分析と歴史の再構築に新たな視座からの貢献を目指す。

■単音節の形態素を基本構造とし、語の形態変化に乏しいシナ=チベット諸語にあっては、インド=ヨーロッパ諸語のような形態変化に文法の基本的な構造が現れるタイプの言語とは異なる発達と変化の過程を辿ったことが明らかになるにつれ、インド=ヨーロッパ諸語の歴史研究における法則や方法論とは異なるアプローチが模索されてきた。形態変化に匹敵する類型特徴をなす声調の分析や、類型構造の詳細な分析に基づいて地理的分布の漸次的推移から歴史の変遷の過程を読み解いて行くマクロな視点による言語地理学的手法もそのひとつである。本研究では、シナ=チベット諸語の地理的多様性と連続性、類型構造の深層における共通性を探究し、アジア地域における諸言語の類型構造の漸次的推移に反映された歴史的变化の諸相を解明していく。

3. 研究の方法

■シナ=チベット諸語および漢語方言について、分析の共通テーマとしていくつかの類型構造を慎重に選定し、未記述言語と文献の現地調査を行ない、その類型構造に見られる文法的な機能とメカニズム、周辺言語との関連性、地域特徴の形成などを分析して解明していく。春と秋に定例の研究集会を開催し、シナ=チベット諸言語の類型構造の共通性と多様性、およびその対応関係を検証する。また各種の言語調査票および主要な語彙データ集の統合索引を作成し、データの利用と参照の便を図る。研究成果の公開討論の場として「国際シナ=チベット言語学会議」を京都大学にて招致開催し、古代日本語も視野に入れた類型論のワークショップを組織したい。

■具体的な研究計画の編成は、[1] 未記述言語の調査。[2] チベット文語の成立と基層言語の探究。[3] 民族文字文献の調査と分析。[4] 古代漢語の構造分析。[5] 漢語方言の構造分析とその地域的変容。の5部門を組織し、研究協力者がその専門に応じて役割を分担して調査と分析を行なう。[1]では共通の検証課題を選定し、言語間の対応関係を比較検討する。[2]では7世紀頃に成立したチベット文語の構造論およびその基層を解明する。[3]では西夏語における類型構造の分析と、近い関係にあるムニャ語との間での対応を検証するほか、彝(イ)文字文献に記録されたロロ諸語の地域的特色と変容を研究する。[4]では古代漢語の形態変化の痕跡や能格構文などの類型構造の分析、チベット=ビルマ諸語との対応関係を検証する。[5]では漢語方言と周辺言語間の影響と変容について、現地調査と資料収集を行なう。

4. 研究成果

本研究では、シナチベット諸語の地理的多様性と連続性、類型構造の深層における共通性を探究し、アジア地域における諸言語の類型構造の漸次的推移に反映された歴史的变化の諸相を解明していくという研究目的のもと、〔1〕未記述言語の調査 〔2〕チベット文語の成立と基層言語の探究 〔3〕民族文字文献の調査と分析 〔4〕古代漢語の構造分析 〔5〕漢語方言の構造分析とその地域的変容 の5項目にわたる具体的な研究計画を編成して、研究分担者と研究協力者各位がその専門に応じて役割を分担し、調査と分析を行なった。以下に、項目ごとの成果を論述する。(★は代表者、❖は分担者、*は協力者を示す。)

〔1〕未記述言語の調査

■現地の専門家と共同あるいは協力のもとで行なった未記述言語および未記述項目の調査は以下のとおり。チベット語諸方言については、❖星泉が中国青海省にてアムド・チベット語の牧民の民俗語彙の調査を実施した。*海老原志穂は、ブータンにてラヤ語、リンシ語、ブムタン語における牧畜語彙に関する記述を行なったほか、チベット語キエロン方言、タマン語、シェルパ語、ツム語における牧畜文化語彙の基礎調査を行なった。★池田巧は海外研究協力者の達娃扎西と共同でチベット語カム方言の口語語彙の記述を進めた。羌・ギャロン諸語については、★池田巧が中国四川省にてムニャ語の東部方言について基礎語彙を記録した。ヒマラヤ諸語については、*桐生和幸がネパールにてメチェ語の方言調査を行ない、来日した話者からの聞き取り調査を継続した。*本田伊早夫は英国にてカイケ語の方言調査を行なった。★池田巧は、ブータンのケンカ語について基本構造を記述し、その成果は本研究プロジェクトの『論集4』に掲載した。

〔2〕チベット文語の成立と基層言語の探究

■チベット文語の構造論および基層の解明につながる研究成果として、*武内紹人、❖星泉、*海老原志穂、★池田巧が、共著『チベットの歴史と社会』言語篇(臨川書店、2021年)の各章を担当して共同執筆した。また同書において*武内紹人は、チベット文語形成の基層をなしたと考えられるシャンシュン語について、現在までの研究の進展を紹介している。武内の担当した第18章「チベット語の歴史」は、国外からの要望に応じて英訳し、History of the Tibetan Language. というタイトルで『論集4』に掲載した。

〔3〕民族文字文献の調査と分析

■民族文字による文献記録について、*荒川慎太郎は、ポーランドのヤギウェオ大学に所蔵が確認された西夏文『法華経』写本残存巻について基礎的な調査を行ない、報告をまとめた。*岩佐一枝は彝(イ)語の2種類の否定辞について、方言の音形と用例およびそれを表記する彝文字のバリエーションを調査し、その地理分布についての論考を『論集5』に掲載した。*岡野賢二と*澤田英夫は、ミャンマー考古学局の支援を受け、ビルマ文字、ピュー文字、モン文字碑文の撮影を行った。また「緬甸館雑字データベース」を構築し東京外大AA研より公開した。*西田愛は、ラダックにおいてチベット語碑文の予備調査を行なった。

〔4〕古代漢語の構造分析

■古代漢語の構造分析において明らかになった主な論点には、つぎのようなものがある。❖大西克也は古漢語研究においてチベット=ビルマ系諸語に見られる文法機能を伴う形態論を機械的に古代中国語に適用する風潮に警鐘を鳴らし、上古中国語の受身文の特徴を巨視的に明らかにした。*宮島和也は、漢語史における否定詞研究および関連する諸言語との対照を行なう上での基礎的な研究として、上古中期漢語(おおよそ春秋戦国時代)の多種多様な否定詞を改めて整理概観し、通時的変化とそのメカニズムの再検討を行った。*戸内俊介は否定詞「不」「弗」の機能が甲骨文と西周以降の言語で異なることを示し、「不」は中立的否定詞である一方、「弗」は使役や限界性を意味する否定詞であると結論づけた。また類別詞の発生について甲骨文を精査し、従来名詞由来とされていた説は極端な少数例にすぎず、一般化できないことを実証した。*松江崇は、疑問語気助詞の体系などに着目しつつ、中古中国語と上古中国語における方言差を論じた。

〔5〕漢語方言の構造分析とその地域的変容

■漢語方言と周辺言語間の影響と変容について、*太田斎は中国陝西省咸陽市の淳化方言について、ラマール・クリスティン教授(フランス東方言言語文化学院 INALCO)との共同調査を行なった。単字音の音節表(声母、韻母、声調結合表)の改訂及び同音字表草稿を完成したが、研究を継続中。*黄沈黙が中国浙江省に話される〈蛮講〉という方言を調査し、基層となる閩東語の特徴の残存と当該方言の形成に影響を与えた呉語の諸特徴がどのように現れているかについて分析を行った。現地で収集したデータは『論集7』に同音字表を発表したほか、モノグラフとして語彙集の編集を進めている。

〔データの集積と整理〕

■チベット=ビルマ祖語の推定語形の索引として、P. K. Benedict (1972) *Sino-Tibetan: A Conspectus of the English-TB Index* をテキストデータ化し、周法高による漢語の同源字を加えて、英語と中国語の双方から TB 祖形を参照できる索引を作成した。公開に向けて編集作業を進めている。シナチベット諸語の祖型の研究に関連して、古代漢語について《説文解字》のテキストデータの整備を行ない、《古今字音対照手冊》と《漢字古音手冊》を統合して、古代中国語の音韻分類に関する検索のためのテキストツールを作成した。1万語レベルの基礎データ集となる予定で現在も研究作業を継続中である。

■ビルマ系諸語については、研究協力者の岡野賢二、澤田英夫、倉部慶太により（1）ビルマ社会主義計画党発行『少数民族の文化と伝統』（全7巻）を電子化。少数民族州における言語使用や借用、また語彙の文化的背景を知る上で貴重な資料である。（2）『ラカイン語辞典』（全4巻）を電子化。ビルマ語と非常に近い関係にあり、ほぼ方言と言ってよいラカイン語の本格的な辞典で、ビルマ語の系統関係を検証する上で重要かつ貴重な資料。現在入手が困難な第一巻を除き、第二巻から順次電子化している。この計画は、残念ながらミャンマーの政情不安とコロナ禍により一時中断を余儀なくされている。

■漢語方言については、研究代表者のもとで《漢語方言調査手冊》（プリンストン大学、1972年）をテキストデータ化し、原著にあわせた繁体字版に加え、簡体字に変換したファイルを作成したほか、同書に散見する誤りを訂正した。索引のソートが研究課題として残されていたが、まもなく解決できる目処が見ついたところである。PDF版とdoc版を配布できるように準備中。あわせて現在では入手困難となっている方言調査のマニュアル類を電子化した。作成したデジタルデータのうちで比較的大規模なものは代表者あるいは分担者の所属する研究機関のウェブサイトで見られるようにするほか、テキストファイルやPDF、写真版などは著作権に留意しつつ研究者コミュニティでの利用に提供する。

〔国際学会／研究会の開催〕

[1] 2019年5月10日～12日に神戸市外国語大学で開催された The 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics (IACL-27) 国際中国語言語学学会第27届年会の開催を協賛し、分科会のセッションとして5月11日[土]に《漢藏語言學論壇》というワークショップを開催した（使用言語は英語と中国語）。

[2] 2019年5月27～29日に東京外国語大学が主宰した The 29th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (KFC Halls and Rooms in Ryogoku, Tokyo) を共同開催した。
<https://sealsxxix.wixsite.com/seals29>

[3] 2019年9月28日～29日に宮崎大学において、本科研と基盤研究(C)「古代中国語方言の動態的研究」(18K00532: 研究代表者: 京都大学・人間・環境学研究所・松江崇)との共催で、シンポジウム「漢語史研究における動態的観点と静態的観点」を開催した。

[4] 2020年1月11日～12日に京都大学人文科学研究所にて Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 を開催した（使用言語は英語）。

[5] 2022年9月15日～18日に京都大学にて第55回国際シナ=チベット言語学会議 [The 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics.] (ICSTLL-55) を開催した。詳細は: <https://sinotibetan.zinbun.kyoto-u.ac.jp/ICSTLL55/>

[6] 2023年7月12日に京都大学人文科学研究所にて STL 科研ワークショップ「西夏語研究の新視角」を開催した（使用言語は日本語／中国語／英語）。

[7] 2023年8月8日～9日に京都大学吉田南にて本科研と京都大学中国語学研究会の共催でワークショップ「閩語史的新視角」を開催した（使用言語は中国語）。

〔研究論集の刊行〕

論集シリーズ『シナ=チベット系諸言語の文法現象』2～6を刊行。収録論文はPDF版を京都大学図書館リポジトリより公開。『論集』1, 2, 4, 5は公開済、3と6は図書館にて公開準備の作業中。

〔概論の刊行〕

池田 巧, 岩尾一史 [編] 『チベットの歴史と社会』上/下、臨川書店、2022年。

■研究代表者以下、研究分担者および研究協力者が問題意識を共有し、それぞれの研究対象の言語の類型構造について立体的な分析を大規模に推進することができたのは大きな収穫であった。本研究課題の成果は「基礎研究における各論」の集積であり、それぞれの言語の専門家の間では、研究協力者各員が発表した論文がそれぞれ評価されているものの、コロナ禍で学术交流が大幅に制限されていたこともあって、本研究プロジェクト自体の認知度は決して高いとはいえない。とはいえコロナ後に研究交流が再開するとともに、本プロジェクトが目指した「類型構造のより深い分析と地理分布から歴史研究に新たな光を当てる」という研究の理念は、少しずつ国内外で評価され始めている。今後は本研究プロジェクトで作成したデジタルデータおよびデータ解析のためのツールを研究者コミュニティに提供して、研究の便宜と発展、相互交流に貢献することで、これらの基礎研究の集積がやがて有機的に結びつき新たな展望が開けることを期待しつつ、ひきつづき論集シリーズおよびモノグラフの刊行を継続して研究成果を公開していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計63件（うち査読付論文 61件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 55件）

1. 著者名 Honda Isao	4. 巻 6
2. 論文標題 Egophoricity and Mirativity in Kaike	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Differences between 'Lacid' and 'Leqi'	4. 巻 6
2. 論文標題 Sawada Hideo	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 33-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kurabe Keita	4. 巻 6
2. 論文標題 The origin of the Manau dance: A folktale text in Jinghpaw	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki, Tashi Nyima, Sonam Wangmo, Tsering Samdrup	4. 巻 6
2. 論文標題 Suprasegmental features of Lamo and its sister languages: with reference to Kansai Japanese	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 67-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki	4. 巻 6
2. 論文標題 Shaping rGyalthangic: A historical account of Yunnan Khams	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko, Huang Yang	4. 巻 6
2. 論文標題 A Geolinguistic Approach to nDrapa Dialectology	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 109-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ikeda Takumi	4. 巻 6
2. 論文標題 Some Grammatical Features of Luzu	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 125-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸内俊介	4. 巻 6
2. 論文標題 殷商漢語數量表達研究-兼論和與個體量詞的來源	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 145-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林智	4. 巻 6
2. 論文標題 上古漢語”有”“無”非無指代詞芻議	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 177-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松江崇	4. 巻 6
2. 論文標題 淺談漢代東部、北部方言的動態變化	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 197-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮島和也	4. 巻 6
2. 論文標題 上古漢語”也”” ” ” ” 的地理分布及其演變補論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 213-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 沈瑞清、盛益民	4. 巻 6
2. 論文標題 ビン語非南朝呉語直系後代説	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 225-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黄沈黙	4. 巻 6
2. 論文標題 ピン東方言泰順蛮講否定詞	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 GrammaticalPhenomenaofSino- Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change	6. 最初と最後の頁 243-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澤田英夫	4. 巻 -
2. 論文標題 ロンウォー語の事象キャンセル	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東南アジア大陸部諸言語の事象キャンセル	6. 最初と最後の頁 189-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西克也	4. 巻 -
2. 論文標題 上古漢語被動句及其中的世界觀 以動力表達為線索	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 繼承傳統 博古通今 紀念 郭錫良先生九十華誕學術文集	6. 最初と最後の頁 173-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野原將揮	4. 巻 28
2. 論文標題 構擬上古音*Kr-:以《安大簡》「 」為例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 聲韻論叢	6. 最初と最後の頁 97-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松江 崇	4. 巻 1
2. 論文標題 試談敦煌變文中的兩類名量詞及其語義功能的差異	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 雲漢	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Norihiko	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation in the Sino-Tibetan Context - A Brief Introduction	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮島和也	4. 巻 5
2. 論文標題 上古漢語否定詞“無”“毋”及其相關字的演變補説 以戰國秦漢出土文獻為主	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 41-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木博之	4. 巻 5
2. 論文標題 從“口那”到“不”：雲南迪慶藏語否定標記的語法化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwasa Kazue	4. 巻 5
2. 論文標題 An Overview of Negation in the Yi Languages Geolinguistic analysis of Yi character maps and a preliminary report on negation in Sani Yi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 85-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Takumi	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation in Mu-nya	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 105-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagano Yasuhiko	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation in rGyalrong	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 117-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lin You-Jing	4. 巻 5
2. 論文標題 The Isomorphism between Negative and Interrogative: A case in Rgyalrong	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 141-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation in nDrapa - A morphosyntactic description	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 167-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Atsuhiko	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation and polarity-reversing effect of an interrogative marker in Pwo Karen	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 183-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Timotheus Adrianus Bodt	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation in Kho-Bwa: A typological comparison	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 203-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ochiai Izumi	4. 巻 5
2. 論文標題 Reconstructing Proto-Atayalic negators	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 239-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiryu Kazuyuki	4. 巻 5
2. 論文標題 Negation pattern in Meche	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 261-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Norihiko	4. 巻 4
2. 論文標題 Notes on the Phonological Development of Menglun Akeu	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki, SonamWangmo, and Tsering Samdrup	4. 巻 4
2. 論文標題 Lamei, another dialect of Lamo (mDzogong, TAR) Vocabulary and sentence structure	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 25-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ikeda Takumi	4. 巻 4
2. 論文標題 An Introduction to Khengkha: A Language of Central Bhutan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 71-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Takumi	4. 巻 4
2. 論文標題 Basic Vocabulary of Khengkha with English-Chinese Index	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 121-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko	4. 巻 4
2. 論文標題 Negative markers in Qiangic languages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 243-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki and Tashi Nyima	4. 巻 4
2. 論文標題 Evidential system of copulative and existential verbs in Lamo	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 259-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagano Yasuhiko	4. 巻 4
2. 論文標題 Applicative in rGyalrong	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 289-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Tsuguhito	4. 巻 4
2. 論文標題 History of the Tibetan Language	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 303-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Yoshiharu	4. 巻 4
2. 論文標題 A Grammatical Manual for the Kinnauri Language (Pangi Dialect)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman	6. 最初と最後の頁 325-373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arakawa Shintaro, Ikeda Takumi	4. 巻 3
2. 論文標題 Directional Prefixes in Tangut and Mu-nya: A Contrastive Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arakawa Shintaro	4. 巻 3
2. 論文標題 Directional prefixes in Tangut: Outline, types, and some remarks	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 15-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Takayasu	4. 巻 3
2. 論文標題 Verb Prefixes in the Tangut (Xixia) Tiansheng Code: Verbs for 'Send Document' and Their Prefixes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Takumi	4. 巻 3
2. 論文標題 Directional Prefixes in Mu-nya	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 69-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko, Nagano Yasuhiko	4. 巻 3
2. 論文標題 Functional development of directional prefixes in nDrapa and rGyalrong	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko	4. 巻 3
2. 論文標題 Connections of directional prefixes and verb stems in nDrapa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 97-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagano Yasuhiko	4. 巻 3
2. 論文標題 Directives in rGyalrong Bola dialect	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 111-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhang Shuya	4. 巻 3
2. 論文標題 Indefinite direction and associated motion prefixes in the Brag-bar dialect of Situ Rgyalrong	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 125-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lai Yunfan	4. 巻 3
2. 論文標題 Directional prefixes in Wobzi Khroskyabs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 153-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurabe Keita	4. 巻 3
2. 論文標題 The cis- and translocative suffixes in Jinghpaw	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 173-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otsuka Kosei	4. 巻 3
2. 論文標題 Directional Prefixes in Tiddim Chin	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 197-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiryu Kazuyuki	4. 巻 3
2. 論文標題 Directional categories in Kathmandu Newar	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 211-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林 範彦	4. 巻 別冊2
2. 論文標題 中国および周辺領域のチベット・ビルマ諸語の参照文法書と諸問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurabe Keita	4. 巻 161
2. 論文標題 The phonological configuration of word-initial NC sequences in Jinghpaw	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 119-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.161.0_119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko	4. 巻 162
2. 論文標題 Classifiers in nDrapa: Definition and Categorization	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 25- 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.162.0_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田 斎	4. 巻 73.3
2. 論文標題 蒸職韻、幽韻における重紐の痕跡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 1- 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林 範彦	4. 巻 3
2. 論文標題 チノ語悠楽方言の「証拠性」戦略における諸問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言語の類型的特徴対照研究会論集』3	6. 最初と最後の頁 111 129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki, Lozong Lhamo	4. 巻 22.4
2. 論文標題 /ka-/ negative prefix in Choswateng Tibetan (Shangri-La, Yunnan)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Language and Linguistics	6. 最初と最後の頁 393-629
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/lali.00092.suz	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 戸内俊介	4. 巻 11
2. 論文標題 「不」はなぜ「弗」と発音されるのか 上中古中國語の否定詞「不」「弗」の變遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『漢字文化研究』11	6. 最初と最後の頁 75-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Yoshiharu	4. 巻 22
2. 論文標題 Non-finite forms of Kinnauri verbs: participle, gerund, and remote past.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of the Graduate School of International Cultural Studies, Aichi Prefectural University	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawasumi Tetsuya	4. 巻 22
2. 論文標題 A Phonological Sketch of the Datong Dialect, Qinghai Province.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代中国語研究』22	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shirai Satoko	4. 巻 19.1
2. 論文標題 A geolinguistic study of directional prefixes in the Qiangic language area.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Himalayan Linguistics. 19(1)	6. 最初と最後の頁 365-392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5070/H919142521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒川慎太郎	4. 巻 41
2. 論文標題 西夏文《天盛律令》中の西夏語動詞前綴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西夏研究	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松江 崇	4. 巻 -
2. 論文標題 略談“動詞+補語”型使成式的拡大機制 - 以早期漢訳仏典中“他動詞+在/到”型使成式為例 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朱冠明、龍国富(編)『仏教漢語研究の新進展』中国社会科学出版社	6. 最初と最後の頁 241-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 巧	4. 巻 94
2. 論文標題 大谷大學所蔵本《呂蘇譯語》について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東方學報	6. 最初と最後の頁 436-425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 6件/うち国際学会 31件)

1. 発表者名 Kiryu Kazuyuki
2. 発表標題 A system of "emphatic particles" in Kathmandu Newar in terms of their "emphatic" functions.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hayashi Norihiko
2. 発表標題 Plural Markers in Youle Jino and Lolo-Burmese.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Arakawa Shintaro
2. 発表標題 Derivation of words in Tangut and derivative elements in the script.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kato Atsuhiko
2. 発表標題 Lae Kwe Kaw: A new "ancient" writing system of Karen.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮島和也
2. 発表標題 從方言詞的角度來看上古漢語的位移動詞“蹠”
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kurabe Keita
2. 発表標題 Bridging constructions in Jinghpaw.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黄成龍
2. 発表標題 中國境內漢藏語名物化標記的類型學研究
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 55 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ikeda Takumi
2. 発表標題 Adjectives in Mu-nya
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 54 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大西克也
2. 発表標題 上古漢語“矣”非體標記說
3. 学会等名 第十屆國際古漢語語法研討會 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ikeda Takumi
2. 発表標題 Negation in the Mu-nya Language.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 53 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hayashi Norihiko
2. 発表標題 Noun Phrase Structure in Menglun Akeu.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 53 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shirai Satoko
2. 発表標題 Prosody of topic and focus in nDrapa.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 53 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sawada Hideo
2. 発表標題 On Borrowed Words in Lhangsu, an Undescribed Northern Burmish Language.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 53 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kurabe Keita
2. 発表標題 Semantics of Burmese zoonyms.
3. 学会等名 International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 53 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 海老原志穂
2. 発表標題 ヤクとゾの毛色を表す認識語彙：ネパール北中部、ラスワ郡のチベット系民族の事例を中心に
3. 学会等名 日本チベット学会第68回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 LIN You-jing (林 幼菁)
2. 発表標題 Isomorphism btw Neg and Interrogative: A Case in Situ Rgyalrong.
3. 学会等名 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 KATO Atsuhiko (加藤 昌彦)
2. 発表標題 Negation in Pwo Karen.
3. 学会等名 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Timotheus Adrianus Bodt
2. 発表標題 Negation strategies in Kho-Bwa.
3. 学会等名 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 KIRYU Kazuyuki (桐生 和幸)
2. 発表標題 Negation patterns in Meche.
3. 学会等名 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 OCHIAI Izumi (落合 いずみ)
2. 発表標題 Negators in Atayalic languages from a comparative perspective.
3. 学会等名 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Weera Ostapirat
2. 発表標題 Sino-Tai: Appraisal and Competing Hypotheses.
3. 学会等名 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田 巧
2. 発表標題 《呂蘇譯語》初探
3. 学会等名 第五屆中國西南地區漢藏語國際研討會（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西克也
2. 発表標題 試論上古漢語被動句及其世界觀 - 以動力表達為線索 .
3. 学会等名 第 27 屆國際中國語言學學會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAWADA Hideo (澤田 英夫)
2. 発表標題 Preliminary report of Tai Hsa, a Northern Burmish language spoken by a Shan tribe.
3. 学会等名 The 52th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics. (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HAYASHI Norihiko (林 範彦)
2. 発表標題 Research project on negation phenomena in Sino-Tibetan languages.
3. 学会等名 WS on Sino-Tibetan languages, in the 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics. (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮島 和也
2. 発表標題 試論上古漢語否定詞的多樣性及其體系。
3. 学会等名 第 27 屆國際中國語言學學會：漢藏語言學論壇（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木 博之
2. 発表標題 從“口那”到“不” - 雲南迪慶藏語否定標記的語法化。
3. 学会等名 第 27 屆國際中國語言學學會：漢藏語言學論壇（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIRAI Satoko (白井 聡子)
2. 発表標題 Negation forms in nDrapa.
3. 学会等名 WS on Sino-Tibetan languages, in the 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics. (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IWASA Kazue (岩佐 一枝)
2. 発表標題 An outline of negation in the Yi languages.
3. 学会等名 WS on Sino-Tibetan languages, in the 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics. (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田 巧
2. 発表標題 藏族口傳文學中の日本人之起源.
3. 学会等名 中國少數民族文學與文獻國際學術論壇（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 巧
2. 発表標題 西夏語的語言後裔：木雅語
3. 学会等名 上海復旦大學歷史學系公開講座（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 巧
2. 発表標題 西夏語的語言後裔：木雅語
3. 学会等名 上海復旦大學歷史學系公開講座（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 野原将揮、池田 巧（共編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 271
3. 書名 『シナ=チベット系諸言語の文法現象6 類型論と史的变化』 [Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 6: Typology and Historical Change.]	

1. 著者名 林 範彦、池田 巧（共編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 276
3. 書名 『シナ=チベット系諸言語の文法現象5 否定の多様性』 [Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation.]	

1. 著者名 長野泰彦、池田 巧（共編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 373
3. 書名 『シナ=チベット系諸言語の文法現象4 繋聯言語と古態』 [Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 4: Link Languages and Archetypes in Tibeto-Burman.]	

1. 著者名 荒川慎太郎、池田 巧（共編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 259
3. 書名 『シナ=チベット系諸言語の文法現象3 方向接辞の機能』 [Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes.]	

1. 著者名 岩尾 一史、池田 巧（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 『チベットの歴史と社会』上	

1. 著者名 岩尾 一史、池田 巧（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 430
3. 書名 『チベットの歴史と社会』下	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Sino-Tibetan Languages シナ=チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論 https://sinotibetan.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大西 克也 (Onishi Katsuya) (10272452)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	林 範彦 (Hayashi Norihiko) (40453146)	神戸市外国語大学・外国語学部・教授 (24501)	
研究分担者	星 泉 (Hoshi Izumi) (80292994)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	荒川 慎太郎 (Arakawa Shintaro)		
研究協力者	岩佐 一枝 (Iwasa Kazue)		
研究協力者	海老原 志穂 (Ebihara Shiho)		
研究協力者	西田 愛 (Nishida Ai)		
研究協力者	岡野 賢二 (Okano Kenji)		
研究協力者	桐生 一幸 (Kiryu Kazuyuki)		
研究協力者	澤田 英夫 (Sawada Hideo)		
研究協力者	戸内 俊介 (Tonouchi Shunsuke)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野原 将揮 (Nohara Masaki)		
研究協力者	宮島 和也 (Miyajima Kazuya)		
研究協力者	宮本 徹 (Miyamoto Toru)		
研究協力者	白井 聡子 (Shirai Satoko)		
研究協力者	鈴木 博之 (Suzuki Hiroyuki)		
研究協力者	高橋 慶治 (Takahashi Yoshiharu)		
研究協力者	本田 伊早夫 (Honda Isao)		
研究協力者	中西 裕樹 (Nakanishi Hiroki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	長野 泰彦 (Nagano Yasuhiko)		
研究協力者	富田 愛佳 (Tomita Aika)		
研究協力者	武内 紹人 (Takeuchi Tsuguhito)		
研究協力者	川澄 哲也 (Kawasumi Tetsuya)		
研究協力者	太田 斎 (Ota Itsuku)		
研究協力者	山田 敦士 (Yamada Atsushi)		
研究協力者	倉部 慶太 (Kurabe Keita)		
研究協力者	山田 大輔 (Yamada Daisuke)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大塚 行誠 (Otsuka Kosei)		
研究協力者	加藤 昌彦 (Kato Atsuhiko)		
研究協力者	松江 崇 (Matsue Takashi)		
研究協力者	竹越 孝 (Takekoshi Takashi)		
研究協力者	木津 祐子 (Kizu Yuko)		
研究協力者	根岸 美聡 (Negishi Misato)		
研究協力者	渡邊 美穂子 (Watanabe Mihoko)		
研究協力者	黄 沈黙 (Huang Chenmo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 第 27 届国際中國語言學學會	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 29th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 漢語史研究における動態的観点と静態的観点	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Workshop on Negation and Sino-Tibetan Languages 2	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 第 55 回国際シナ=チベット言語学会議 (ICSTLL-55)	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 西夏語研究の新視角	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 ピン語史的新視角	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------